

## 2013 年度「教育制度論」総括

学校教育(教育学)

山本久雄

今年度もまた教職必修科目「教育制度論」を取り上げる。定点観測により評価結果に影響を与える要因を抽出したい、ということの他に、授業者は長年この科目を担当し、この科目の成否に最も関心があるからである。

### 1. 授業の概要

授業の、シラバス上の目的、到達目標、内容、学部のディプロマ・ポリシー(以下、DP)との関連については、例年通りなので繰り返さない。

受講学生は、登録上 97 名、学校教育教員養成課程(教育、心理、幼年、国語、音楽、保体、英語の各専修)及び特別支援教育教員養成課程の 1 回生が主である。

例年と同じく、毎回、授業の補助資料として、教授内容を簡潔にまとめ、資料(法令、新聞記事、統計資料等)、発展学習のための情報(書名、URL)を刷り込み、授業中に重要語句を入れるべきスペースを含むプリントを各回の授業開始前に配布し、それに沿って講義形式ですすめた。それは A4 サイズに統一し、通しページを打った。ただ、マイクを、主として後部に着席する学生に持たせ、発言させる機会も設けた。そして、これも例年通り、毎回の授業の最後に小紙片に授業のまとめ、意見・質問の記載を求めた。それに対して次回にフィードバック、場合によっては討論をするはずであったが、率直なところ、丁寧になしえたとは言い難い。

成績評価方法は受講生には伝えた上で、毎回の小紙片、期末の筆記試験により行った。期末試験の受験者は 92 名、平均正答率は 67.5 %であった。これもほぼ例年通りである(平成 22 年度 73.3 %, 23 年度 60.0 %, 24 年度 66.4 %)。

小紙片は 3 点満点とし、授業内容に関連する具体的な体験等を織り込んだ意見が書か

れているものは 3 点とした。その中には、オープンエンドの討論に委ねてもよいものもあったが、それらを活かせなかった。痛恨の極みである。あとになって振り返って見ればシラバス(計画)通りに実施という観念が強すぎたのかも知れない。

筆記試験は今年も空欄補充の形式で行った。要するに暗記した知識の再現のみを問う訳である。思考力や判断力、自己学習力の育成が求められているが、本授業の内容及び試験で測る「ちから」はそれらの前提となるものもある。もちろん、成績評価の客観的根拠を示す必要、短時間で成績処理をする必要があることも背景にある。

### 2. アンケート結果

#### (1) 授業者独自のアンケート

第 14 回目の授業でアンケート調査を実施した。例年通り、以下の質問項目について「①強い肯定」、「②肯定」、「③否定」、「④強い否定」のうち一つを選んでマークしてもらった。むろん、無記名である。

- 1 この授業の目的は、教室での指導・学習が行われるための「教室の外」での配慮を理解する、ということだったのですが、あなたは総じて授業内容を把握できましたか。
- 2 この授業ではプリントを配布しましたが、このプリントは「教育制度論」の学習に役立ちましたか。
- 3 あなたは授業時間外にそのプリントを読む、挙げられているWEBページにアクセスする、などプリントを学習に活用しましたか。
- 4 プリントは1週間前に配布した方がよいと思いますか。
- 5 この授業で新しい知識は得られましたか。
- 6 この授業の内容には興味が持てましたか。
- 7 あなたは、教職に就くことを希望していますか。
- 8 授業外学習を促進するため、毎回、宿題を出した方がいいと思いますか。
- 9 あなたの食事、睡眠、生活リズムはいい状態にありますか。

このうち、1、5は授業の主目的としての知識・理解を問うもの、2は充実に努めたプリントの評価・活用に関するもの、3、4、6、8は学習意欲の喚起に関するもの、そして7、9はこれらの背後にあって学習の成否を規定する要因にかかわるものである。

以下にこの4年間の集計結果を示す。「平均」は①、②、③、④の回答数にそれぞれ4、3、2、1を乗じ、その和を回答総数で除した値である。(②)も同様である。

		選択肢 (%)				平均
		①	②	③	④	
質問 1	22年度	9.2	78.0	12.8	0.0	2.96
	23年度	8.5	65.3	20.3	5.9	2.75
	24年度	9.6	79.5	11.0	0.0	2.99
	25年度	10.7	75.0	10.7	3.6	2.93
2	22	56.0	39.0	3.5	1.4	3.50
	23	44.5	47.9	5.0	2.5	3.35
	24	64.9	33.8	1.4	0.0	3.64
	25	56.0	38.1	6.0	0.0	3.50
3	22	2.1	28.4	42.6	27.0	2.06
	23	2.5	27.7	47.9	21.8	2.13
	24	14.9	36.5	43.2	5.4	2.61
	25	7.1	31.0	46.4	15.5	2.30
4	22	4.9	22.8	72.4	0.0	2.33
	23	2.5	26.9	59.7	10.9	2.20
	24	9.6	24.7	57.5	8.2	2.36
	25	9.5	26.2	56.0	8.3	2.37
5	22	70.9	24.1	2.1	2.8	3.63
	23	45.4	50.4	2.5	1.7	3.40
	24	68.9	31.1	0.0	0.0	3.69
	25	64.3	34.5	1.2	0.0	3.63
6	22	24.1	56.0	13.5	6.4	2.98
	23	15.1	49.6	26.1	9.2	2.72
	24	28.4	60.8	10.8	0.0	3.18
	25	19.0	56.0	17.9	7.1	2.87
7	22	44.0	34.8	16.3	5.0	3.18
	23	52.9	31.9	10.9	4.2	3.34
	24	45.8	43.1	8.3	2.8	3.32
	25	51.8	34.9	12.0	1.2	3.37
8	22	2.1	18.4	47.5	31.9	1.91
	23	0.8	16.8	45.4	37.0	1.83
	24	2.7	21.6	58.1	17.6	2.09
	25	6.0	19.3	33.7	41.0	1.90
9	22	6.9	45.8	34.0	13.2	2.48
	23	11.8	33.6	39.5	15.1	2.43
	24	6.8	45.9	37.8	9.5	2.50
	25	22.9	37.3	26.5	13.3	2.70

結果は、総じて例年と同様の傾向を示すが、総じてそのスコアは、昨年のを若

干下まわるものであった。ただ、この授業のメインの目的である内容の把握、新しい知識の獲得、内容への興味、授業者が特にこだわったプリントの有用性についてはある程度のスコアが維持されている。また、授業外でのプリントの活用、プリントの事前配布希望、宿題の希望については、相変わらずの課題である。

## (2) 「DPによる授業評価」

これは受講学生がこの授業の学部 DP への貢献度を評価するものである。各 DP を 2 項目に分け、それぞれについて授業の貢献度を 4 段階（「④十分貢献した」、「③貢献した」、「②あまり貢献しなかった」、「① DP とは無関係であった」）で評価する。授業の第 14 回目で実施した。その結果は以下である。評価項目は共通しているので省略する。

		選択率 (%)				平均
		④	③	②	①	
DP1	A	49.4	47.0	3.6	0.0	3.5
	B	26.5	39.8	26.5	7.2	2.9
DP2	A	39.8	53.0	6.0	1.2	3.1
	B	32.5	47.0	18.1	2.4	2.7
DP3	A	21.7	37.3	26.5	14.5	2.7
	B	12.0	41.0	31.3	15.7	2.5
DP4	A	22.9	42.2	27.7	7.2	2.8
	B	19.3	53.0	21.7	6.0	2.9
DP5	A	45.8	44.6	7.2	2.4	3.3
	B	12.0	42.2	25.3	20.5	2.5

毎度のことながら、授業者の意図と学生の受け止め方の差異に戸惑う。とりわけ、DP5A は、使命感、責任感などの項目であるが、ある程度のスコアが出ているのは、授業者の加齢による説教口調のなせるものか、それともこれがいわゆる「隠れたカリキュラムの顕在化」というものか。

## 3. 総括

年によりスコアの上下はあるが、毎年ほぼ同じ傾向となっている。これは、授業者の深く刻み込まれたものに拠るものであろう。この調査及び報告書の作成は己を知るよき機会となった。調査に応じてくれた学生諸君に感謝したい。